

ハゲじり

中秋の有多毛

中秋の名月にあたる9月24日(月)、ツル多はげます会(須郷貞次郎会長)の秋の例会「中秋の有多毛」が山田温泉で開かれました。

例会には県内外から約30人が参加。須郷会長は「世の中暗いニュースもありますが、鶴田町からはげの光で明るく照らしたい」とあいさつ。本会は、県の文化生活NPO法人支援グループの支援を受け、今年1月からNPO法人として新たにスタート。インターネットのクラウドファンディングを活用して、はげ神社やモニュメント、世界を照らす平和の光像の建設に取り組み予定。また、来年には、会設立30周年を迎え、記念誌を発行する予定で、さらなる発展を目指しています。

会場では、十五夜の月に見立てた頭を絵の穴から出して誰の頭かを当てる「名月当てクイズ」や、はげ頭めがけて冷却シートを投げる「ハゲピタダーツ」、額にひもが付いた吸盤をつけて引っ張り合う「吸盤綱引き対決」が行われまし

た。吸盤綱引き対決では、藤田哲也さん(公園通り)が念願の初優勝を果たしました。藤田さんは、「1回戦負けが続いていましたが、少しずつ勝てるようになってきた。平成最後に初優勝できて嬉しいのと、吸盤で引っ張られて痛いのと半々です」と笑顔で優勝の喜びを話していました。



▷優勝トロフィーを贈呈する須郷会長(写真右)と、痛めた頭に冷却シートを貼った優勝者の藤田さん(写真左)

吸盤綱引き全国大会が開催されました

10月13日(土)、福祉健康保養センター「つがる富士見荘」において、「第4回吸盤綱引き全国大会」が開催されました。

例年、鶴田町文化祭当日に公民館で開催していましたが、今年は観光シーズンである秋に開催し、鶴の舞橋などの観光をPRする目的で、つがる富士見荘での単独開催となりました。開催にあたって須郷会長は、「例会の時と違って、全国大会となるとみんな真剣に勝負しています。選手の皆さん、見学者の皆さん、この大会で笑って、楽しく、集中力を高め、ストレスも解消しましょう」と開会の言葉を述べました。

今年の全国大会には16人が出場し、そのうち2人は北海道札幌市と栃木県日光市からの出場者でした。当日は、お互いの吸盤が同時に外れ、大会史上初の引き分けになる場面や、準決勝の前に頭に貼った吸盤を子どもに引っ張ってもらい、どのくらいの力で引っ張っているのかを体験してもらうなどのエキシビションも行われ、試合以外の場面でも盛り上がっていました。大会では、成田晃生さん(みどり町)が決勝戦で逆転勝利をし、全国大会4連覇を達成。成田さんは、「年々みんな強くなってきている。今年も辛うじて優勝できたが、来年はどうなるか分からない。自分たちももちろんですが、周りも笑顔にすることができるので、この大会に出場することができるのはとても幸せなことだと思います」と笑顔で話していました。

INTERVIEW



北海道代表として札幌市から出場した

小嶋 章夫さん

鶴田町の温泉施設に宿泊した時にこの会を紹介していただき、8年前に入会しました。

入会してからほぼ毎回、会のイベントに参加していますが、8年経っても楽しいし、高齢の方も多いので、勉強になる話もたくさん聞くことができます。

鶴田町には、色々とお世話になっているので、私も少しでも力になりたいと思い、札幌市などでスチューベンのお話をさせてもらっています。

大会は初戦敗退でしたが、来年は優勝したいと思っています。



△決勝戦で逆転優勝を果たした成田さん(写真左)